

伝統を守るとは、新しく生み出すこと

主幹 中村 昌子

関東地方も梅雨入りしましたが、大泉ではプール開きを迎え、今年の水泳指導が始まりました。

さて、5月中旬からスタートした4～6年生の移動教室も、6年生日光移動教室で無事終了いたしました。それぞれの学年で、出かけた場所ごとに、地域の特徴を踏まえたテーマで取り組むフリータイム学習については先号で副校長から詳しくお伝えしたところですが、私も6年生の日光フリータイム学習に引率し、講師の先生から多くのことを学び、どうしてもお伝えしたくなりました。

私は、「日光彫り」グループに同行しました。「日光彫り」とは日光に400年ほど続く伝統工芸です。400年という年月でお気づきだと思いますが、日光東照宮の建設に携わった職人たちが、そのまま日光に残り、補修工事などにかり出される合間に、余暇として始めた工芸品作りが始まりと言われていています。子どもたちの講師をお願いした平野秀子先生は、三代続く日光彫りの彫刻家であり、丁寧にわかりやすく日光彫りの手ほどきをして下さいました。



6年生の子どもたちは自分のデザインした図柄を2時間余りかけて上手に作り上げることができました。その後平野先生に日光彫りの歴史や、道具・材料の特徴など一人一人のテーマに沿った質問をして400年以上続く伝統を守っていらっしゃる職人さんにしか分からないような貴重なお話しを伺うことができました。現在、日光彫りが抱える大きな問題は、木製の家具や製品の需要が減っているということです。加えて材料となる木材の入手が困難になっていること、そして何よりもこの伝統を引き継ぐ後継者が不足していること



などをあげられました。ある6年生が「このままでは日光彫りがなくなってしまうこともあるのですか。」と心配そうに質問すると、平野先生は「うーん…」と一瞬考えこまれた後「それもあるかもしれませんがね」と話されました。「でも」と先生はこんな話をして下さいました。「長く伝わる手法だけを受け継ごうとすると、どうしても無理が出てきます。一人前の職人になるにも時間がかかる、材料費が高ければ製品も高くなってなかなか売れない。この問題を乗り越えるため

に、私たちは思いきった方法に踏み切りました。日光彫りに塗る漆を本漆だけでなくカシュー塗料(カシューナッツからとれる塗料)という新しい塗料を使うことで、エアスプレーなどで吹き付けることができるようになりました。この方法なら熟練した職人でなくても作業に取り組むことができます。また、商品の値段も押さえることができ、多くの人に日光彫りの商品を手にしていただく機会を増やすことができるのです。勿論本来のやり方も継承していきますが、伝統を守るということは、一つのことだけに固執してはダメで、新しく生み出すことを考えていかなければならないと実感しています。」とても心に残る貴重なお話しを伺うことができました。菊の園も今年創立77周年です。伝統を受け継ぐということの意味を実感している6年生にとって、何よりもこれからの自分たちの学校での働きを見つめ直す機会となりました。